

平成18年度後期「地質学概論」

期末定期試験的問題

本講義は野外で実際に「ものを見る」ことの重要性を主体に進める予定だった。しかし、例年にならぬ天候不良のため野外実習は一回しか実施できず、そのため後半の講義も手探り状態で進めざるを得なかった。また、工学部の学生である諸君には講義内容についてとまどうところも多々あったものと推察する。

そこで来年度以降の本講義をより理解しやすいものとし、受ける側にとって意義・意味あるものとするために以下の問に回答してもらいたい。回答は別用紙に記入すること。回答用紙によせられた本講義への意見をもって諸君らの理解度や講義への積極性を判断し、野外実習後に課したレポートの採点結果とあわせて本講義の最終成績を評価する。

問1. 本講義(野外実習・室内講義)の内容について、工学系の学生として有意義だったと思う点について理由とともにのべよ。また、個人的に興味をひいた点があれば、それについてその理由とともにのべよ。

問2. 本講義の内容について、工学系の学生として意味を見いだせなかったと考える点について理由とともにのべよ。

問3. 本講義を受講生にとってより理解しやすいものとするにはどのようにすべきと考えるか。今年度と同じ方式での実施、講義主体、そして講義のみの3方向での実施を来年度は検討しているが、その他に考えられる改善方法があればのべよ。

問4. 本学科で3年生前期までに開講されている他の講義と本講義とをどのように関連づけるべきと考えるか。この「関連づける」という作業には、本講義の内容を他の講義のそれと関連づけられるように塚脇が講義内容を修正すること、あるいは貴君らが本講義の内容を他の講義の内容に沿う方向で理解するように配慮すること、のふたとおりの方向が考えられよう。これら双方あるいは一方について考えることをのべよ。

問5. その他の意見があったら遠慮なく記入すること。